

「槻木の舞台」で二十歳の会

泉野小卒業生

茅野市泉野小学校の2015年度卒業生(16人)が12日、復活に携わった思い入れのある「槻木の舞台」(市有形文化財)で「20歳の廻り舞台の会」を開いた。



お世話になった人を招き、タイムカプセルの開封や「すべてのいのちがく泉野ふるさと」の合唱、「泉野カブかん囃子」の踊り、昔話の語りなどで思い出を振り返り、二十歳を祝った。壊れて使われなくなった舞台を見つけたのは3年の地域巡り。地元区などに働きかけ、自分たちも掃除を手伝ったりして復活し、現在も学習発表などに活用されている。

タイムカプセルは、児童会を引っ張る6年のときに

「20歳の廻り舞台の会」で、6年生のときに埋めたタイムカプセルを掘り出す卒業生たち

タイムカプセル、合唱、踊り 思い出振り返る

全校児童や職員らにはがきに手紙を書いてもらい埋めた。二十歳になったら開封する約束で、今年が廻り舞台が復活してちょうど10年の節目とも重なった。男性陣がスコップで掘り出すと、缶やビニール袋を通して雨水がしみ込んでいたハプニングもあったが、パン屋さんやダンサーになる夢を書いた人もいて、「全然違う」「こんなこと書いたんだ」と笑いも。

「泉野ふるさと」が出来たのも6年のとき。地域とつながりみんな歌える歌がほしいと、歌詞に込めたい言葉を全校からも募り、元教員で音楽家の唐澤史比古さん「箕輪町」に作詞・作曲を依頼した。この日も唐澤さんの指揮で参加者全員で歌った。

司会は地元の有賀英和さんが務め、踊りの先生の松本幸俊さん、語りの半田みゆりさんも出席。児童会長だった伊藤侃諒さん(20)は「舞台もきれいなまま。みんなでお祝いできてうれしい」。会を裏で支えた当時の担任小池ひろ子さんは「立派に成長して感激です」と目を細めていた。

(武井葉子)